

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和元年 5 月 3 1 日掲載

3 年 2 組 田中暁子

長いGWが終わると中学校生活最後の体育大会の練習が始まりました。ところが、練習はなかなか進みませんでした。その理由は3年生にありました。練習中に3年生の集中力が途切れてしまい、そのつど先生方から指導を受けることの繰り返しでした。また3年生同士で声をかけあったり、注意し合ったりすることもできませんでした。しかし、練習を重ねていくうちに私たちは確実に変わっていきました。それは両応援団長が必死に声をかけている様子が伝わってきたからです。常に全体のことを考えて行動し、声がかれるぐらい大きな声で指示を出していました。私も団長の思いに共感し全力で頑張りました。多分みんなも同じ思いだったと思います。

そして、本番当日。グラウンド状況が悪い中、全校生徒と保護者で準備を行い、大会はスタートしました。団体競技では、私たちの団が少し負けている状況でしたが、3年生が中心となって応援しました。3年の綱引きで、みんなの心を一つにして勝ったときには、団結することの喜びや楽しさを心の底から感じることができました。最後の団対抗リレーでは、それまで3年生を中心に応援していた団が、下級生も含めて全員が声をからして応援するようになっていました。閉会式で全校生徒が声を出して校歌を歌ったときにはこれまでにない大きな達成感を味わうことができました。

私はこの体育大会を通して「3年生が団結して行動し下級生に手本を示すことで学校全体が動く」ということを学びました。